

前文部科学事務次官 前川喜平さんを囲んで学習会

主催 “学びをひろげる わたしと〇人の会”

テーマ 「日本の教育の行方」

2018年1月27日（土） 阿倍野市民学習センター 第2研修室 参加者63名

1月27日・28日、前川喜平さんを囲んで学習会を開催しました。「天下の前川喜平」を二日間拘束した大胆不敵な荒業に、今となって思えば、われながら冷や汗がにじみます。

1日目は、「日本の教育の行方」をテーマに、63名の参加者でディスカッション形式で進め、2日目は、「日本の障害児教育の今とこれから」をテーマに、190名の参加者で取り組みました。

二日間とも定員を大幅に上回る申し込みがあり、たくさんの方たちをお断りしてしまったので、その方たちにも二日間の内容を伝えたいと思うのですが、どんな方法でどこまでできるのか、まとめと報告の仕方を思案しているところです。



学習会で交わされた前川さんの話や、参加者とのやり取りから、私たちは教育や学校、社会、政治、国のあり方...など、「いま」を考えるヒントや道筋を見つけることができるような気がします。フッと背中を押して、前に歩き出す勇氣ももらえるかもしれません。

とりあえず、「雰囲気」だけでもお伝えできればと思います。

1日目 “学びをひろげる わたしと〇人の会”
主催 予め参加者をお願いしたアンケートをスタッフで整理して4つの「討論の柱」を設定しました。前川さんは、先に送ったそのア

ンケートをじっくり読み込んで出席されていたように感じました。

①文科省でやってきたこと、やりたかったこと ②差別と教育～インクルーシブ教育、民族教育を中心に～ ③子どもと学校と社会～いじめ、貧困、学力、道徳...～ ④総括討論～自分にやれること、自分がやりたいこと～

テーマごとに、前川さんが話し、それを受けて参加者で話し合う方法で進めたのですが、最初から「もう一つあります、『やりたくなかったけれど、やってきたこと』と会場を沸かせ、時に軽妙で時に辛辣で、豊富な知識と、緻密な記憶に支えられた話は、大胆に政治の舞台裏にまで踏み込んで、聞く者の耳目を惹きつけて離しません。「日本の官僚には優秀な人がいるものだ」、ふとそんな思いがよぎりました。

予定通りに進むわけがありません。時間の許す限り話し合いを続け、前川さんも本音を吐きだしてくださったのではないかと思います。





学習会の終了後は交流会。私は前川さんに鶴橋駅周辺・旧猪飼野（イカイノ）を歩いてほしかったので、在日コリアンの郭さんをお願いしたところ、快く引き受けてくださり、会場捜しから、フィールドワークの資料作成と案内まで勤めてくださいました。細い路地を 20 人近くの大人をぞろぞろと案内しながら、拡声器をつけて説明してくださる熱心さに頭が下がりました。

交流会は写真で見ての通り。43 人が集まり、無礼講であくまでもにぎやかな交流会でした。

ホテルまで送って行く道すがら、前川さんが「いやあ、大阪の人たちのエネルギーには驚きました。充実した 1 日を過ごしました。面白かったです」と、繰り返し言われていました。

